

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400707		
法人名	株式会社ナラティブ		
事業所名	グループホームはるかかの杜	ユニット名:すずな	
所在地	仙台市太白区向山二丁目13番8号		
自己評価作成日	令和 7 年 1 月 8 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 7 年 2 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「らしく生きる それぞれのLIFE」を事業所目標に掲げ、お一人おひとりの想いや声を大切に、やりたいことや希望の実現のために対話を繰り返しながら、関係性の構築に努めております。また、これまでの生活習慣や、好きなことに着目して、ホームに入居したからでなくなったということがないように、生活の中で楽しみを感じて頂けるよう、ご本人、ご家族のご意向を大切にしております。現在は面会制限は特になく、定期的に面会に来られるご家族も多くいらっしゃいます。面会以外でも定期的に電話や毎月の手紙でも近況の報告もさせて頂き、その中でご家族との繋がりも大切にさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の清山会は介護施設や診療所を展開する医療福祉グループである。法人理念と社是を基に「らしく生きる それぞれのLIFE」を事業所目標に掲げた。職員の笑顔は入居者の笑顔と捉え、一人ひとりの想いを大切に、笑顔で楽しく過ごせるよう支援に取り組んでいる。ホーム前は勾配のある坂道で交通量が多いことから青葉城跡や三神峯公園等へドライブする機会を多く持ち、野外でゆっくり楽しむ事を企画実行している。外出先での入居者のほっこりした笑顔の写真はホーム内に掲げてある。恵方巻や雛祭りのちらし寿司等イベント時は入居者と一緒につけて楽しく食べている。何時も職員と入居者の明るい笑い声が聞こえるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームはるかの杜)「ユニット名 すずな」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、社是を念頭に置き、日々従事しています。法人の理念、社是に基づく事業所目標やユニット目標を掲げ、ミーティングや管理者との面談時、日々の勤務時に振り返りを行っています。理念の共有や理解に向けた取り組みを実施しています。	事業所目標「らしく 生きるLIFE」とユニット目標は、ミーティングで振り返りを行なっている。入居者一人ひとりに耳を傾けて想いに寄り添い、その人らしく過ごせるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、定期的に町内会長さんや包括支援センターの方々とは2カ月に1回の運営推進会議などを通じて交流を図っております。近隣への散歩や買い物を通じて、地域の一員になれるよう交流できる機会を設けています。	町内会回覧で地域の行事や情報を把握している。地域のゴミ置き場のカギを預かり、回収日に開閉や清掃等をしている。地域の防災訓練や防災パトロール、ダンボール回収に参加し交流を図っている。近隣高校の吹奏楽部定期演奏会の案内がきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の様子を定期的に町内会長さんや地域包括にお伝えする中で、認知症の人の理解や支援方法をお伝えしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議にて町内会長さんや包括支援センターに事業所の様子をお伝えしております。	町内会長や民生委員、地域包括職員がメンバーとなり開催している。ホームの現状や日常の様子、イベント等を報告し、町内会の活動や「認知症カフェ」のあり方、住民の入居希望の情報等を話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	適宜、事業所の様子や活動を包括支援センターにお伝えしております。必要時は協力のお声がけをさせて頂いております。また町内会の防災訓練に参加しました。	介護保険更新代行や区分変更、生活保護者の諸手続き等で担当窓口と連携を図っている。研修参加や諸報告等は法人清山会を通して行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所での勉強会に身体拘束をしないための勉強会を行っています。また、安易に施錠をしないようにドアチャイムを設置するなどの工夫を行っています。	職員が提出するグレーゾーンカードは委員会で集計・分析を行い、今後の対応策を話し、職員に周知している。法人の勉強会があり、オンラインで参加している。外に出たい方には、ゆっくり話を聞き、一緒に行動する等寄り添う介護を実践している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の勉強会で虐待防止の勉強会を行っています。また、虐待まではいかない「不適切ケア」についても振り返りの機会を設けるなど、法人の取り組みを事業所の勉強会に活かしています。	身体拘束廃止委員会と並行し、勉強会で不適切ケアが虐待に繋がることへの理解を深め、身体拘束と虐待のないケアに努めている。年2回法人でメンタルヘルスアンケートを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の勉強会にて成年後見制度について学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約内容、重要事項を一緒に読み合わせし、その都度出た疑問に答え、不安なく入居していただいています。また、説明後にも疑問や不安に応えるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に入居者の日々の様子をお伝えするとともに、ご要望やご意見を伺う機会を設けており、いただいたご意見に対しては、スタッフ皆で改善したり、共有を図っています。また玄関に意見箱を設置し、いつでも投書できるようになっています。	面会時に要望や意見を聞く機会とし対応している。入居間もない家族に生活の様子を話している。「何かやらせてください」に応えている。居室担当が毎月フォトレターを作成し家族に送っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人面談を実施しています。また法人全体で実施するメンタルヘルスアンケートや仕事と職場のアンケートを通じて、なかなか言えない意見や希望を拾い上げる機会を設けています。	管理者は、日常的に職員とのコミュニケーションを図り、話しやすい環境作りを意識している。洗濯機、食堂のソファを買い換えた。法人からの連絡やアンケートは、個人の携帯に入りグループラインで共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を法人として設け、自ら取り組んでいける仕組みがあります。また、職場のアンケートを通じてスタッフの意見を反映できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加や法人外の研修に関しては、スタッフの希望、能力に応じて自由に参加できるようにしています。また1年目、2年目とフォローアップ研修があり、スタッフからの意見を聞く機会もあります。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	Zoomで開催している地域よろず懇話会に参加し、同業者やそれ以外の職種の方の意見を聞く機会があります。また内部研修を通じて横の繋がりができるような仕組みになっています。	医師や看護師、他事業所の所長等の話が聞ける法人主催の「地域よろず懇話会」は、毎月開催され職員は自由に参加し、交流を図っている。看護師や薬剤師に服薬の相談、助言を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族を含め、事前の面談やご本人の想いや困っていることを伺う機会を持ち、不安がなく入居できるように努めています。また信頼関係を構築できるようにご本人の立場にたつて関わりを持つようになっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの間、話し合いの場を多く持ち、ご家族の立場での不安な気持ちや悩み、要望を気軽に話せるようじっくりと時間を使って少しでも不安が軽減できるようお答えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報をご家族や利用していた施設、病院スタッフ、ケアマネージャーから詳しくお聞きし、他職種で見極めを行い、助言を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ、入居者という区別なく、お互いが困っていることに手を差し伸べられるような環境作りに努めています。皆で協力し、家事や買い物、得意なことを日々活かせるよう努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や定期的に電話、毎月の手紙を通じ、コミュニケーションを図る機会を設けております。また、こまめに日々の様子を報告したり、受診時などの際は報告の連絡を行っています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に聞き取りを行い、馴染みの方との交流や関係が途切れないよう努めています。馴染みの人、場所に行く機会を定期的に設けております。	面会は自由で家族やひ孫等の来訪があり、居室でゆっくりできるよう配慮している。家族と一緒に墓参り、外食、買い物等に出かけている。青葉城跡や杜の市場等は、馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活する中でお互いの性格や個性を尊重しながら一緒に活動しています。スタッフが間に入ることで交流が図れる方の場合には積極的に関わりが持てるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に電話連絡や毎月の手紙で関係性が途切れることのないよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相手のペースに合わせた生活が継続してできるよう柔軟性を持ち、その方の想いを尊重したお声かけを心掛けています。	日常の会話の中から、思いや要望をくみ取り、情報共有ノートに記録を残し話し合っている。「甘い物食べたい」や「外に行きたい」は、玄関先のベンチでおしゃべりする等叶えられる事はすぐに対応するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にもご協力頂きながら、バックグラウンドアセスメントを作成して頂くなど、これまでの生活習慣や生活環境の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で気づいた心身状態、変化などを共有する申し送りノートを作成し、スタッフ間で把握できるよう努めております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの聞き取りや満足度を伺い、その方自身のケアプラン内の目標を達成できるようミーティング時に話し合い、実践、改善を行っています。	3カ月毎に居室担当者がモニタリングを行い、6カ月毎に計画作成者が見直し作成している。入居者や家族に新たな要望、意見を確認し、申し送りノートや職員の意見を取り入れた現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「気づき」を申し送りノートやミーティング、日々の職員同士の会話の中で情報共有し、実践や改善点の把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を把握し、望むことが実現できるようすぐに対応しています。看取り期における面会なども実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園、施設など散歩しながら周辺地域の話などを行い、近隣の方とも交流の機会が持てるようにしています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に希望に沿ったかかりつけ医を選んでいただいています。受診時や何かあった際にはご家族にすぐに連絡ができるようにしています。	月2回の内科の訪問診療を受診している。認知症の薬を服薬している方は、法人の診療所に通院している。歯科医は月2回の訪問診察があり、歯科衛生士の口腔ケアの指導を月2回受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が勤務しており、その都度、報告を行い情報を共有しております。看護師不在時もノートに記載し、後にアドバイスをもらうなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者には入院時にその方の情報を伝えていきます。また入院時や退院時に病院関係者に不安なことなどを相談し、助言をいただいています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と話し合う機会を設け、ご本人、ご家族の意向を確認した後に看取りの指針をお伝えし、共有を図っております。状況に応じ、地域の訪問看護ステーションと連携を図り、チームで支援しております。	「重度化した場合における対応(看取り介護)に関する指針」を明文化し、入居時に説明し、同意書を交わしている。重度化した場合に段階的に話し合いの場を持ち、方針の統一を図っている。医師の説明と同時に再度同意書(医師用)を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で急変時や事故発生時の対応について勉強会を行っています。ユニットミーティング時も振り返りを行います。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練の参加、避難場所の把握、事業所でも避難訓練の実施をしています。	年2回の夜間想定を含んだ避難訓練を実施している。震度6の地震発生想定訓練後火災を発見した消火、通報、避難訓練を行っている。業務継続計画が策定され備蓄が保管されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	想いに耳を傾け、相手を理解しながら誇りや自尊心を損ねないようお一人お一人に合わせた声掛けを行っています。	トイレ誘導は、側に寄り添い目立たない言葉がけをしている。呼び名は名字に「さん」付けて呼んでいる。女性の入浴や排泄介助は同性で対応している。居室で化粧をする方を見守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相性も考慮しながらチームでお一人お一人との関係性を構築し、それぞれが自己表現、自己決定が自由にできるようスタッフ間で連携しながら、働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの起床や就寝時間、食べ物の好みも異なり、その方のペースに合わせた生活をしていただいています。スタッフの都合にならないように徹底しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びなどはご本人に決めて頂いております。すずなユニットは男性が多いため、毎朝髭剃りをしております。また男性の方の中には、髭を伸ばしている方もおり、おしゃれとして髭を整えております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなもの、嫌いなものなどご意向を確認しながらお好きな食事の提供をしています。また食事の内容にあった器を選定するなど、見た目や色合いなども工夫しております。行事の際の食事也希望を聞きながら、食事内容の選択ができるよう食事が楽しめるような工夫をしています。	昼食と夕食は配食業者を利用している。朝食は職員が調理している。パン食等入居者の好みに合わせている。恵方巻やクリスマスケーキ等行事時は入居者と一緒で作っている。回転すし等外食に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく食事できるように献立を作成し、食事の中に感想を伺っています。水分が少ない方には代わりになるようなヨーグルトやゼリーを召し上がっていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず歯磨き、入れ歯の方は毎晩洗浄剤を使用しています。口腔内の状態を常に観察し、歯科受診も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の状況を把握し、日中布の下着をはいていただく方が多い状況です。また排泄リズムを把握しながら自尊心を傷つけないようなお声かけを心かけています。	排泄パターンを把握し、適時のトイレ誘導の声かけをしている。日中は全員がトイレで排泄をしている。夜間のみオムツやポータブルトイレ利用の方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分など一人ひとりの方に応じた体調管理をしています。できる限り下剤に頼らないように日々活動にお誘いしています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	朝風呂がお好きな方の希望に沿ったり、時間などは関係なく入浴していただいています。ご本人の使い慣れたシャンプーなどを使用し、入浴を楽しんでいただいています。	週2回以上の入浴を行っている。一番風呂や入浴剤を入れる等、要望に合わせて、入浴が楽しくなるよう工夫をしている。必要な方にキャリーリフトを使用し、安全で安心な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋でゆっくり過ごしたい方など、ご本人のペースに合わせて1日を過ごして頂いています。無理なく休息できるようホールのソファも使用しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などスタッフ間で共有し、服薬チェックも必ずダブルチェックを行い、事故防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いなど好きなことや得意なことに集中できる時間を設けるなど役割や楽しみを通じ気分転換、リフレッシュをして頂けるような支援をしております。また、会話を楽めるようにそれぞれにあった話題を提供しております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食料品や日用品などの買い物や行きたいところ、思い出の場所など入居したことで行けないということがないように、多く外出の機会を設けています。ご本人、ご家族からも大変喜ばれています。(現在は新型コロナウイルスの流行状況によって外出を制限している場合もあります)	向山公園や三神峯公園に花見、青葉城址や秋保に紅葉狩りドライブに出かけている。青葉神社に初詣に行った。ホーム前は坂道で交通も多いので外出はドライブが多い。天気の良い日は敷地内のベンチやベランダで日向ぼっこやおしゃべりをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫には1人ずつポーチがあり、必要な分を持ってご希望に応じてご使用いただくようにしています。出納帳を作成し、毎月ご家族に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、ご家族のご意向がある際は都度、電話やZoomができるよう支援しております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に、毎月カレンダーを考えたり、ご利用者の皆さんで作成した作品を飾るなど、生活感や季節感を取り入れています。また、植物や生き物などのお世話をすることが好きな方がおり、ホールに水槽があり金魚を飼っております。観賞されたり、餌をあげたりすることが楽しみの一つになっております。	ホールはCO2モニターを設置し、随時に窓を開け換気を行い、適温湿が管理された気持ちの良い空間である。毎月入居者と作るカレンダーや折り紙の作品が飾ってある。節分の鬼の面等職員が季節ごとに飾り物を考え工夫を凝らしている。テレビを見ている方や仲良しとおしゃべり等思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが居心地よく過ごしていただけるよう、気の合った方と近くの席で過ごしていただいたり、テレビがお好きな方は観やすい席にするなどして工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前自宅で使用していた物や写真などを置くことで使い慣れたものの継続や安心していただいています。またお部屋の清掃も本人と一緒に、または許可を得て清掃しています。	ベッドや洗面台、クローゼット、エアコンが備え付けである。使い慣れたタンスや机、椅子、テレビが持ち込まれ、家族の写真が飾ってある。落ち着いた暮らせる自分の居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理や洗濯干しなど出来ることは一緒に行い、歩行が不安定な方も安全に移動できるような環境作りを行っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400707		
法人名	株式会社ナラティブ		
事業所名	グループホームはるかかの杜	ユニット名:はぎ	
所在地	仙台市太白区向山二丁目13番8号		
自己評価作成日	令和 7 年 1 月 8 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 7 年 2 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「らしく生きる それぞれのLIFE」を事業所目標に掲げ、お一人おひとりの想いや声を大切に、やりたいことや希望の実現のために対話を繰り返しながら、関係性の構築に努めております。また、これまでの生活習慣や、好きなことに着目して、ホームに入居したからでなくなったということがないように、生活の中で楽しみを感じて頂けるよう、ご本人、ご家族のご意向を大切にしております。現在は面会制限は特になく、定期的に面会に来られるご家族も多くいらっしゃいます。面会以外でも定期的に電話や毎月の手紙でも近況の報告もさせて頂き、その中でご家族との繋がりも大切にさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の清山会は介護施設や診療所を展開する医療福祉グループである。法人理念と社是を基に「らしく生きる それぞれのLIFE」を事業所目標に掲げた。職員の笑顔は入居者の笑顔と捉え、一人ひとりの想いを大切に、笑顔で楽しく過ごせるよう支援に取り組んでいる。ホーム前は勾配のある坂道で交通量が多いことから青葉城跡や三神峯公園等へドライブする機会を多く持ち、野外でゆっくり楽しむ事を企画実行している。外出先での入居者のほっこりした笑顔の写真はホーム内に掲げてある。恵方巻や雛祭りのちらし寿司等イベント時は入居者と一緒にとって楽しく食べている。何時も職員と入居者の明るい笑い声が聞こえるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状況に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームはるかの社)「ユニット名 はぎ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、社是を念頭に置き、日々従事しています。法人の理念、社是に基づく事業所目標やユニット目標を掲げ、ミーティングや管理者との面談時、日々の勤務時に振り返りを行っています。理念の共有や理解に向けた取り組みを実施しています。	事業所目標「らしく 生きるLIFE」とユニット目標は、ミーティングで振り返りを行なっている。入居者一人ひとりに耳を傾けて想いに寄り添い、その人らしく過ごせるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、定期的に町内会長さんや包括支援センターの方々とは2カ月に1回の運営推進会議などを通じて交流を図っております。近隣への散歩や買い物を通じて、地域の一員になれるよう交流できる機会を設けています。	町内会回覧で地域の行事や情報を把握している。地域のゴミ置き場のカギを預かり、回収日に開閉や清掃等をしている。地域の防災訓練や防災パトロール、ダンボール回収に参加し交流を図っている。近隣高校の吹奏楽部定期演奏会の案内がきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の様子を定期的に町内会長さんや地域包括にお伝えする中で、認知症の人の理解や支援方法をお伝えしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の運営推進会議にて町内会長さんや包括支援センターへ電話にて事業所の様子をお伝えしております。	町内会長や民生委員、地域包括職員がメンバーとなり開催している。ホームの現状や日常の様子、イベント等を報告し、町内会の活動や「認知症カフェ」のあり方、住民の入居希望の情報等を話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	適宜、事業所の様子や活動を包括支援センターにお伝えしております。必要時は協力のお声がけをさせて頂いております。また町内会の防災訓練に参加しました。	介護保険更新代行や区分変更、生活保護者の諸手続き等で担当窓口と連携を図っている。研修参加や諸報告等は法人清山会を通して行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所での勉強会に身体拘束をしないための勉強会を行っています。また、安易に施錠をしないようにドアチャイムを設置するなどの工夫を行っています。	職員が提出するグレーゾーンカードは委員会で集計・分析を行い、今後の対応策を話し合い、職員に周知している。法人の勉強会があり、オンラインで参加している。外に出たい方には、ゆっくり話を聞き、一緒に行動する等寄り添う介護を実践している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の勉強会で虐待防止の勉強会を行っています。また、虐待まではいかない「不適切ケア」についても振り返りの機会を設けるなど、法人の取り組みを事業所の勉強会に活かしています。	身体拘束廃止委員会と並行し、勉強会で不適切ケアが虐待に繋がることへの理解を深め、身体拘束と虐待のないケアに努めている。年2回法人でメンタルヘルスアンケートを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の勉強会にて成年後見制度について学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約内容、重要事項を一緒に読み合わせし、その都度出た疑問に答え、不安なく入居していただいています。また、説明後にも疑問や不安に応えるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に入居者の日々の様子をお伝えするとともに、ご要望やご意見を伺う機会を設けており、いただいたご意見に対しては、スタッフ皆で改善したり、共有を図っています。また玄関に意見箱を設置し、いつでも投書できるようになっています。	面会時に要望や意見を聞く機会とし対応している。入居間もない家族に生活の様子を話している。「何かやらせてください」に応えている。居室担当が毎月フォトレターを作成し家族に送っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人面談を実施しています。また法人全体で実施するメンタルヘルスアンケートや仕事と職場のアンケートを通じて、なかなか言えない意見や希望を拾い上げる機会を設けています。	管理者は、日常的に職員とのコミュニケーションを図り、話しやすい環境作りを意識している。洗濯機、食堂のソファを買い換えた。法人からの連絡やアンケートは、個人の携帯に入りグループラインで共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を法人として設け、自ら取り組んでいける仕組みがあります。また、職場のアンケートを通じてスタッフの意見を反映できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加や法人外の研修に関しては、スタッフの希望、能力に応じて自由に参加できるようにしています。また1年目、2年目とフォローアップ研修があり、スタッフからの意見を聞く機会もあります。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	Zoomで開催している地域よろず懇話会に参加し、同業者やそれ以外の職種の方の意見を聞く機会があります。また内部研修を通じて横の繋がりができるような仕組みになっています。	医師や看護師、他事業所の所長等の話が聞ける法人主催の「地域よろず懇話会」は、毎月開催され職員は自由に参加し、交流を図っている。看護師や薬剤師に服薬の相談、助言を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族を含め、事前の面談やご本人の想いや困っていることを伺う機会を持ち、不安がなく入居できるように努めています。また信頼関係を構築できるようにご本人の立場にたって関わりを持つようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの間、話し合いの場を多く持ち、ご家族の立場での不安な気持ちや悩み、要望を気軽に話せるようじっくりと時間を使って少しでも不安が軽減できるようお答えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報をご家族や利用していた施設、病院スタッフ、ケアマネージャーから詳しくお聞きし、他職種で見極めを行い、助言を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ、入居者という区別なく、お互いが困っていることに手を差し伸べられるような環境作りに努めています。皆で協力し、家事や買い物、得意なことを日々活かせるよう努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や定期的に電話、毎月の手紙などを通じ、コミュニケーションを図る機会を設けております。また、こまめに日々の様子を報告したり、受診時などの際は報告の連絡を行っています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に聞き取りを行い、馴染みの方との交流や関係が途切れないよう努めています。馴染みの人、場所に行く機会を定期的に設けております。	面会は自由で家族やひ孫等の来訪があり、居室でゆっくりできるよう配慮している。家族と一緒に墓参り、外食、買い物等に出かけている。青葉城跡や杜の市場等は、馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活する中でお互いの性格や個性を尊重しながら一緒に活動しています。スタッフが間に入ることで交流が図れる方の場合には積極的に関わりが持てるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に電話連絡するなど関係性が途切れることのないよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相手のペースに合わせた生活が継続してできるよう柔軟性を持ち、その方の想いを尊重したお声かけを心掛けています。	日常の会話の中から、思いや要望をくみ取り、情報共有ノートに記録を残し話し合っている。「甘い物食べたい」や「外に行きたい」は、玄関先のベンチでおしゃべりする等叶えられる事はすぐに対応するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にもご協力頂きながら、バックグラウンドアセスメントを作成して頂くなど、これまでの生活習慣や生活環境の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で気づいた心身状態、変化などを共有する申し送りノートを作成し、スタッフ間で把握できるよう努めております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの聞き取りや満足度を伺い、その方自身のケアプラン内の目標を達成できるようミーティング時に話し合い、実践、改善を行っています。	3カ月毎に居室担当者がモニタリングを行い、6カ月毎に計画作成者が見直し作成している。入居者や家族に新たな要望、意見を確認し、申し送りノートや職員の意見を取り入れた現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「気づき」を申し送りノートやミーティング、日々の職員同士の会話の中で情報共有し、実践や改善点の把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を把握し、望むことが実現できるようすぐに対応しています。看取り期における面会なども実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園、施設など散歩しながら周辺地域の話などを行い、近隣の方とも交流の機会が持てるようにしています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に希望に沿ったかかりつけ医を選んでいただいています。受診時や何かあった際にはご家族にすぐに連絡ができるようにしています。	月2回の内科の訪問診療を受診している。認知症の薬を服薬している方は、法人の診療所に通院している。歯科医は月2回の訪問診察があり、歯科衛生士の口腔ケアの指導を月2回受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が勤務しており、その都度、報告を行い情報を共有しております。看護師不在時もノートに記載し、後にアドバイスをもらうなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者には入院時にその方の情報を伝えていきます。また入院時や退院時に病院関係者に不安なことなどを相談し、助言をいただいています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と話し合う機会を設け、ご本人、ご家族の意向を確認した後に看取りの指針をお伝えし、共有を図っております。状況に応じ、地域の訪問看護ステーションと連携を図り、チームで支援しております。	「重度化した場合における対応(看取り介護)に関する指針」を明文化し、入居時に説明し、同意書を交わしている。重度化した場合に段階的に話し合いの場を持ち、方針の統一を図っている。医師の説明と同時に再度同意書(医師用)を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で急変時や事故発生時の対応について勉強会を行っています。ユニットミーティング時も振り返りを行います。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練の参加、避難場所の把握、事業所でも避難訓練の実施をしています。	年2回の夜間想定を含んだ避難訓練を実施している。震度6の地震発生想定訓練後火災を発見した消火、通報、避難訓練を行っている。業務継続計画が策定され備蓄が保管されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	想いに耳を傾け、相手を理解しながら誇りや自尊心を損ねないよう一人一人に合わせた声掛けを行っています。	トイレ誘導は、側に寄り添い目立たない言葉がけをしている。呼び名は名字に「さん」付けて呼んでいる。女性の入浴や排泄介助は同性で対応している。居室で化粧をする方を見守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相性も考慮しながらチームでお一人お一人との関係性を構築し、それぞれが自己表現、自己決定が自由にできるようスタッフ間で連携しながら、働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの起床や就寝時間、食べ物の好みも異なり、その方のペースに合わせた生活をしていただいています。スタッフの都合にならないように徹底しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方のお好きな色の把握や、スタイルを事前に伺い、おしゃれができるようにしています。また月1回散髪やネイルケアを行っています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の好みを伺いながら献立を作成しています。食事の準備、片付けも男性、女性関係なくお手伝いしていただいています。	昼食と夕食は配食業者を利用している。朝食は職員が調理している。パン食等入居者の好みに合わせている。恵方巻やクリスマスケーキ等行事時は入居者と一緒に作っている。回転すし等外食に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく食事できるように献立を作成し、食事に感想を伺っています。水分が少ない方には代わりになるようなヨーグルトやゼリーを召し上がっていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず歯磨き、入れ歯の方は每晚洗浄剤を使用しています。口腔内の状態を常に観察し、歯科受診も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の状況を把握し、日中布の下着をはいていただく方が多い状況です。また排泄リズムを把握しながら自尊心を傷つけないようなお声かけを心掛けています。	排泄パターンを把握し、適時のトイレ誘導の声かけをしている。日中は全員がトイレで排泄をしている。夜間のみオムツやポータブルトイレ利用の方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分など一人ひとりの方に応じた体調管理をしています。できる限り下剤に頼らないように日々活動にお誘いしています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	朝風呂がお好きな方の希望に沿ったり、時間などは関係なく入浴していただいています。ご本人の使い慣れたシャンプーなどを使用し、入浴を楽しんでいただいています。	週2回以上の入浴を行っている。一番風呂や入浴剤を入れる等、要望に合わせて、入浴が楽しくなるよう工夫をしている。必要な方にキャリーリフトを使用し、安全で安心な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋でゆっくり過ごしたい方など、ご本人のペースに合わせて1日を過ごして頂いています。無理なく休息できるようホールのソファも使用しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などスタッフ間で共有し、服薬チェックも必ずダブルチェックを行い、事故防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いなど好きなことや得意なことに集中できる時間を設けるなど役割や楽しみを通じ気分転換、リフレッシュをして頂けるような支援をしております。また、会話を楽めるようにそれぞれにあった話題を提供しております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食料品や日用品などの買い物や行きたいところ、思い出の場所など入居したことで行けないということがないように、多く外出の機会を設けています。ご本人、ご家族からも大変喜ばれています。	向山公園や三神峯公園に花見、青葉城址や秋保に紅葉狩りドライブに出かけている。青葉神社に初詣に行った。ホーム前は坂道で交通も多いので外出はドライブが多い。天気の良い日は敷地内のベンチやベランダで日向ぼっこやおしゃべりをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫には1人ずつポーチがあり、必要な分を持ってご希望に応じてご使用いただくようにしています。出納帳を作成し、毎月ご家族に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、ご家族のご意向がある際は都度、電話やZoomができるよう支援しております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に、毎月カレンダーを考えたり、一緒に写った写真を飾ったり、皆で作成した作品を飾るなど、生活感や季節感ををとりいれています。	ホールはCO2モニターを設置し、随時に窓を開け換気を行い、適温湿が管理された気持ちの良い空間である。毎月入居者と作るカレンダーや折り紙の作品が飾ってある。節分の鬼の面等職員が季節ごとに飾り物を考え工夫を凝らしている。テレビを見ている方や仲良しとおしゃべり等思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが居心地よく過ごしていただけるよう、気の合った方と近くの席で過ごしていただいたり、テレビがお好きな方は観やすい席にするなどして工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前自宅で使用していた物や写真などを置くことで使い慣れたものの継続や安心していただいています。またお部屋の清掃も本人と一緒に、または許可を得て清掃しています。	ベッドや洗面台、クローゼット、エアコンが備え付けである。使い慣れたタンスや机、椅子、テレビが持ち込まれ、家族の写真が飾ってある。落ち着いた暮らせる自分の居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理や洗濯干しなど出来ることは一緒に行い、歩行が不安定な方も安全に移動できるような環境作りを行っています。		